



岩成正志さん(社団法人鳥取青年会議所理事長)

岩成 今日はよろしくお願ひいたします。私は、小売業を行なっています。先ほどまだ若い人の関心が低いのではないかとという話がありました。確かに、私もそう思います。確かに合併のきっかけは国だということところは否めない事実だと思いますが、自分たちのまちは自分たちのことと考え機運を高めることが、合併に関心を持ち真剣に考える一つのきっかけになると思います。

市長 確かに国が地方分権を推進するという観点から、地

方公共団体、市町村の体制を整備していくことは課題であるという面もありますし、また国の厳しい財政事情などもあります。福祉のこともわかるように、今、国・県の仕事が多々市町村の仕事にならざるを得ないわけですから、市町村がしっかりしなければなりません。国からの一方的な押しつけではなく、望んで取り組んでいくということも必要だと思えます。市町村の立場からも合併を前向きにとらえて進めていく必要が、今出てきていると思えます。

青年会議所のみなさんも随分前から、地域づくりをテーマに広域的な地域のみとまりを大切に考える方があったと思えますので、そういう点からも、若い人に市町村合併の必要性や広域的な地域づくりの展開といったことには理解していただけたらと思っておりますが…。

岩成 私たちの活動エリアは、鳥取県東部十五市町村ですが、今の生活圏や鳥取県東部の将来を考えると、歴史的なことや地理的なこと、あるいは共通の文化を、因幡という歴史ある言葉の中で育んできていく中で、十五の行政枠に分かれながら、それぞれが一緒のことにお金を出しながらやっていてもいけないのではないかと…。

市長 そうですね。

岩成 合併はあくまで手法ですから、推進しているわけではないのですが、もっと連携する必要があると、その当時から言い続けていました。

市長 生活圏が一つだということ、合併を考慮するうえで大きな出発点であり、生活圏に市町村の行政区域を合わせることが、市町村が仕事をやる上でも大変大事なことであり感じています。

旧ダイエー跡地活用で 市民サービスの向上

司会 女性の立場から、新市に期待されることとかはございますか。

坪田 私は育児サークルをやっています。先ほど言われた、若い人たちに浸透してないということ、お母さんたちの間にも言えることです。私たちの地区で合併の説明会が行われたことは知っています。興味がないというのがあります。実際に小さい子どもを連れて行けない、置いても行けないということ、若いお母さんたちは合併に対して、どうなるのかわかっていないのが現状だと思います。幼い子を持つ私たち親は、遠出がしにくくて行動半径がとて狭いので、検診やいろいろな手続などは、今までどおり各地区ごとでしていただくとう助かります。でも、合併すれば市役所に行かなければならない事があると思えます。市役所がどこにあるのか、担当課はどこなのか、わからない人たちが市役所に出向かないといけないときには、とても不安だと思えます。それを解消するためにも、窓口を一本化することが必要だと思えます。例えば母子手帳の発行、出生届、それから子どもについての相談などの窓口を一方所にして、そこから各専門部署に交通整理をしていけば、だれにもわかりやすいと

思えます。このたび取得された旧ダイエーの建物は、駐車場から風雨にさらされずにそのまま館内に入れます。これは小さい子どもを連れた親にとって大変ありがたいことなので、ぜひ旧ダイエーにそういう窓口や場所を作って欲しいですね。

それと、二階を図書館にするという案が出ていますが、今さざんか会館にある市民活動団体を支援する「アクティブとっとり」という機能を、市民と行政が協働するという意識を広め、充実した活動に導くためにも、ダイエーの二階に移していただきたいです。近くにサポートしていただ



坪田恵さん
(「ゆうゆうとっとり子育てネットワーク」代表)